



## 創立 60 周年記念

# “ コンタクトレンズエピソード大賞 ”

### ● 優秀賞作品

#### <学生の部> 「コンタクトレンズの素敵な思い出」

宇佐美桃子 (女性/23才/岐阜県)

.....

私は音楽が大好きです。小学校2年生の時から、大学生の卒団まで合唱団に所属していました。私とコンタクトレンズの出会いは中学3年生の時です。それまではメガネがなくても日常生活に支障はなく、学校の授業の時のみメガネをはめていました。合唱団でもダンスをするため、メガネをかけずにレッスンへ行っていました。

コンタクトをはめた私は、合唱団のレッスンに行きました。指揮者の先生の顔が鮮明に見えます。この時始めて、目が悪いことで世界をぼやっと見ていたことに気づきました。

そんな中、歌を歌っている時に先生と目が合いました。心の中がぐっと動かされる感覚になったのです。先生は指揮をするだけでなく、目で想いを訴えていることを知りました。この時をきっかけに合唱団がより大好きになりました。そして、ただ歌うだけでない表現することの楽しさを知りました。

コンタクトをはめた私は合唱団で慰問へ行きました。コンタクトをはめることで今まで以上にお客様の表情がよくみえます。私たちはお客様と一緒に歌いました。歌いながらお客様と目が合います。1人の方は頬をあげて笑顔でいらっしゃいます。身体を左右に揺らしながら歌ってくださっています。1人の方は団員ひとりひとりを見るように、眼差しを向けてくださいます。そしてその目には涙が浮かんでいます。1人の方は目をつぶって口ずさまれています。全身で音楽を感じ取っているようです。

一緒に歌っているだけなのに、たくさんの人が様々な表情をしています。私も目頭が熱くなりました。そして心が温かくなるような気がしました。ただ歌うのではなく、身体を使って目で相手に語りかけることが大切だと感じました。視力が落ちたことは悲しいですが、だからこそ目と目のコミュニケーションの大切さに気がつきました。この経験があったからこそ、15年間合唱団を続けることができたと思います。

## <学生の部> 「コンタクトレンズとの初めての出会い」

山崎 薫子 (女性/20才/長野県)

.....

私は聴覚障害を抱えながらも、社会体育の新体操をやっていた時期がありました。自分の周りには耳が聞こえる人しかいなくそれだけでも逆境なのに、その上目も悪かったのです。新体操はリボンやロープなどの手具を上にも投げることがあります。目が悪いと手具を落としてしまうので、眼鏡をかけて練習をしていました。しかし眼鏡をかけていても、新体操を始めたばかりだったので頻繁に手具を落としていました。その時に落ちてきた手具が顔面に当たりメガネが歪んだり、壊れたりしたこともありました。顔も特に鼻柱が痛くてたまりませんでした。

大会でも、眼鏡は流石にかけることはできなかったもので、裸眼で挑んでいました。手具を落とすと減点され入賞を逃してしまうので、落とさないことばかり考えていました。すると、技術や表現が疎かになってしまい手具を落とさなかったのに点数が低く順位も下のほうでした。そんな生活を3年間続けてきました。

手具が見えないもう新体操やりたくないと駄々こねた私を見かねて、母がコンタクトレンズを購入することを決めたそうです。そんなわけで眼科に連れて行ってもらい、コンタクトデビューしました。初めは眼につけるのが怖かったけれど、つけてみると眼鏡がないのに周りが見えてとても嬉しくて心踊りした記憶があります。それはもう嬉しすぎてプールに行く時もつけてしまったくらいです。

コンタクトのおかげで、全力で新体操をやることができるようになり厳しい練習も楽しいと思えるようになりました。また大会でも少しずつ上達していきました。眼鏡をかけなくても見えるという喜びは毎回コンタクトをつける度に感じています。つけっぱなしすると眼に悪かったり眼が乾いてしまったりするデメリットはありますが、使い方を守れば生涯のお供になります。コンタクトに出会って本当によかったと今でも思います。コンタクトレンズ、これからもよろしくお願いします！

## <学生の部> 「コンタクトレンズとの初めての出会い」

横尾陽斗 (男性/12才/大阪府)

.....

ぼくは生まれつき難聴で、補聴器をつけています。ようち園のころ、目が悪い事に気がつきました。小学校に入って、メガネをかけるようになりました。

補聴器とメガネをいっしょにつけると、耳の辺りがゴロゴロして、ザワザワして、すぐに痛くなります。でも、補聴器をつけないと聞こえないし、メガネをかけないと見えないし、いやでした。

5年生の時、学校のスキー林間で、補聴器と、ゴーグルと、メガネを一緒につけるのは大変だろうと、お母さんがコンタクトをすすめてくれました。

最初はこわかったけど、つけてみたらすごく楽になりました。耳も痛くならないです。

世界中の補聴器とメガネの両方をつけている人に、コンタクトをすすめてあげたいです。ぼくがコンタクトにしてから、お母さんが「メガネ男子も良かったけど、コンタクトにして男前になったから、女の子がいっぱい寄って来たらどうしよう。」とじょうだんを言っています。でも、コンタクトをすすめてくれて、とっても感謝しています。



## 創立 60 周年記念

# “ コンタクトレンズエピソード大賞 ”

### ● 優秀賞作品

<一般の部> 「コンタクトレンズとの初めての出会い」

佐野由美子 (女性/48才/三重県)

.....

50年近く生きてきて気付いたことがある。それは「人生においては、何ひとつ無駄な経験はない」ということだ。

視力が弱いことを、私はなかなか気付かせない子どもだった。というのも「視力が弱いことは悪いこと」だと私自身が思っていたからだ。幼稚園の時、担任の先生から「お子さんは目が悪いかもしれませんね」と告げられた母は、表情を曇らせた。そこから私の努力が始まった。小学校に入ると、視力検査前に保健室へ行きCがたくさん並んだ表をノートに書き写して覚えた。それで視力検査は、なんとかすり抜けた。困ったのは授業だ。先生が黒板に書く文字が読めない。仕方なく、先生が話すことを片っ端からノートに書き連ねた。母はある時何気なく私のノートを見て「うちの子、頭大丈夫かな？」と心配したという。なにしろ算数のノートに、先生の飼っている犬の話が延々と書いてあったからだ。担当の先生が雑談好きだったのだから仕方がない。しかし中学の夏休み。月の観察があり、あっさりとした私の目の異常がばれた。乱視もあった私には、いつも月は満月だったからだ。……こうして、ようやく眼科へ連れていかれた。メガネは頭痛を引き起こしたので断念し、私はコンタクトレンズに出会った。レンズを目に入れて驚いた。物の輪郭はこんなにハッキリしていたのか！ 黒板の字を書き写すだけでいいなんて、なんてラクなのか！ コンタクトレンズは私に見える感動を与えてくれた。「今まで損をしていたなあ」と、その時は思った。

でも、そうじゃない。目が始めから良かったら、私は「見える感動」を知らなかった。当たり前だと思っていただろう。視力の弱さは、私に感動と感謝を教えてくれた。「人生においては、何ひとつ無駄な経験はない。視力が弱かったことも、検査表を覚えたり先生の話を書き写したあの馬鹿げた日々も。すべて私の大切な財産だ」今は心から、そう思っている。

## <一般の部> 「コンタクトレンズの素敵な思い出」

小 俣 美 希 (女性/28才/東京都)

.....

私は昨年11月結婚し、現在はお腹に愛しい命が宿っています。愛する旦那さんとの初めてのデートは約3年前。葛西臨海公園でピクニックをしようと約束をし、当日は苦手ながらもお弁当作りを頑張り張り切って出かけました。東京駅で待ち合わせをし、お酒を買って公園でのんびり過ごしました。その後少し散歩をしようと言いついて歩いていると、彼が突然目の痒みを訴えました。コンタクトがズレたと言います。私は幸せなことに視力が良く、コンタクトレンズについて何一つ知りません。何て声をかけてよいか分からずあたふたしている横で、目を弄っている彼が突然「あっ！落ちた！」と叫びました。どうやら片方のコンタクトレンズを草むらに落としてしまったようなのです。私は目を凝らしてコンタクトレンズを探しました。きっと透明な小さいものだろう、見つかるのかなと不安な中、「あ！あったよ！」と私は言いました。見つけたのはコンタクトレンズではなく四つ葉のクローバーでした。彼は笑いながらも、コンタクトを見つけてよ、と訴えました。わたしはおかしくなり笑いが止まりませんでした。その後すぐにコンタクトレンズを発見しましたが、どうやら洗浄液というものが要だと言うのです。結局再装着は諦め片目しか見えない状況になってしまいました。辺りはだんだん暗くなり、初めて行った公園の土地勘がない私は少し不安になりました。すると彼が、「左目が見えないから、(左の)腕を組んで。危なくないように誘導して！」と言ってきたのです。わたしはドキドキしてたまりませんでした。そっと腕を組み、ゆっくり歩き始めました。まさかこんなに急接近するとは、おもいもよらなかったです。これも草むらに落ちてしまったコンタクトレンズのおかげだと今では思っています(笑)。四つ葉のクローバーを見つけ、腕を組み彼と歩くことができた、そんな甘酸っぱい初デート。今も旦那さんと腕を組むと時々思い出します。

## <一般の部> 「コンタクトレンズに期待する夢」

山下 さやか (女性/37才/福井県)

.....

右と左で視力に大きな差がある私は、眼鏡で矯正すると無理がかかり疲れやすいため、医者のお言通り生活に支障が出ない程の矯正にとどめている。そのため、眼鏡をかけても視力は0.7程。それが、コンタクトの場合になると、眼鏡に比べ矯正が適しており、1.2まで視力が上がる。この見え方の差は非常に大きい。

例えば、彼とのデートでの待ち合わせ。私が待っていると遠くから彼がやってくる。眼鏡ではよく見えず目を細めたときに眉間にしわを寄せながら探すことになるが、コンタクトの私は遠くの彼にもすぐさま気づき、満面の笑みで大きく手を振ってお出迎えできる。遠くから爽やかに駆けてくる彼に私は胸が高鳴り、彼も笑顔で出迎える私に大満足してくれるだろう。

彼とのデートはやっぱり動物園が良い。特に猿山。何時間でもずっと見ていたい。猿の行動は私たち人間と似ていて実に面白い。コンタクトなら、猿一人一人の表情や動きもしっかりと見て取れる。それぞれの動きから世話好きだとか、大人しいとか、お調子者だとか分かる。彼と一緒につぶさに猿を眺めながら、ゆっくりと流れる時間を楽しむのだ。

お昼ご飯は、ラーメンを食べにいこう。コンタクトならレンズが湯気で曇る心配もないし、アツアツを食べて顔に汗をかき眼鏡がずれるということもない。ラーメンの美味しさを彼と一緒に思う存分味わいたい。

夕方には近所のお祭りへ。射的で彼の好きなフィギュアを取ろう。コンタクトでねらいを定めれば一発だ。せっかくだから仮面ライダーのお面もかぶりたい。眼鏡の上からだと被りにくいだがコンタクトならばぴったり。私の仮面ライダー姿を見て彼は大笑い。

さあ、コンタクトをつけてのデートプランは全て整った。完璧だ。あとは、彼氏さえいれば。しかし「コンタクトレンズに素敵な彼氏を期待する・・・」なんて言ったらコンタクトはこう答えること間違いなし。

「そこまでは面倒見切れません」